

支え合い 共に生きる子ども

副校長 細井宏一

最近、休み時間になると、6年生数名が先生と話をしている様子を校内のあちらこちらで見かけます。これはどうも次の生活団活動について各担当の先生と打ち合わせをしているようです。6年生の生活団活動への意欲はたいへんすばらしく、頼もしく感じます。

4月11日(月)には、入学式を挙行了しました。新一年生は少し緊張している様子もありましたが、来賓の方からの「おめでとう」の問いかけに、声を揃えて「ありがとうございます」という姿が、とてもほほえましかったです。ご来賓には、東京学芸大学学長 出口利定様 にお越しいただきました。「あいさつをしましょう。」「友達のよいところを見つけましょう。」といったお話を1年生に。上級生には「自分が1年生のときのことを思い出し、頼りにされる上級生になるようにしましょう。」というお話があり、皆しっかり聞いていました。6年生による楽しいアトラクションもとてもよかったですし、全校児童との掛け合いで歌う「1年生になったら…」の歌声は、新入生を迎えた喜びに溢れていました。新入児たちもとてもうれしそうでした。

新入生を迎え、児童数573名での学校生活が始まりました。そこで、学校教育目標を、あらためて見直してみましょう。

<教育目標>

自ら学び、自ら考え、ねばり強く取り組む子ども
支え合い 共に生きる子ども
たくましく 清い心の子ども

自分で考え、学んでいくこと、そして、ねばり強く取り組む姿勢を大切にします。知識だけでなく考える力・学ぶ力を伸ばします。そして仲間と共に、共生をしていくこと、また、多少のことにはへこたれずにいけるたくましさがあり、素直で、人のものや心を大切に、思いやりや優しさのある清い心を育てていきます。

最近、児童の様子を見ていて「失敗は許さない」といったことが強くありすぎると感じる場合があります。特に、他人に対して厳しく、相手の悪いところにばかり目が行って批難するような姿が気になります。テレビではよく、芸能人がボケとツッコミのような形でおもしろおかしく相手をバカにしたりすることがあります。その方々は商売ですし、そのようにいじられることでテレビに出演できていくのでしょうから、言う方も言われる方も、分かっているのものでそれでいいのでしょう。しかし、日常生活の中の多様な考え方のいる集団、人間関係では、必ずしもそうではありません。本当に何でも言い合える仲で、楽しく言い合えるのならよいのですが、普通はあのようなボケとツッコミを、「きつい」と感じる人も少なからずいるものです。どうも、単純にまねをして、相手の気持ちをよく考えないで子どもたちが行っていることも多いようで、とても気になります。人の気持ちを考える、相手の距離感をもっと考えられることも必要でしょう。

また、一方で、多少のことではへこたれない強さを持つことも大切であると思います。それには自己肯定感を育むことが重要です。このような両面を育てていくことが大事であると考えます。

今年は、学校目標の2番目「支え合い共に学ぶ子ども」、重点目標として、掲げていきます。附属大泉小のすべての子どもたちが、心身共に健やかな成長を遂げて、たくましく成長していけるよう、充実した教育活動を推進していきたいと思っています。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。